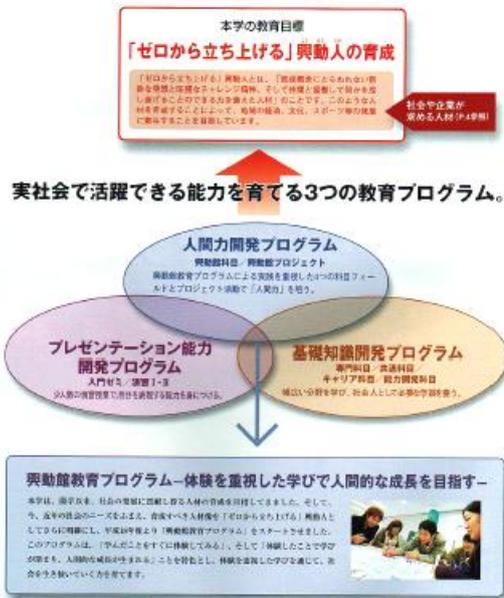


社会で力を発揮し未来を



失礼いたします。わたくし、広島経済大学で興動館科目創造センター長を務めております、濱田と申します。興動館のプログラムに関しましては、先ほど、友松からかなり細かい話をさせていただきましたし、残り時間もあまりありませんので、科目について簡単にポイントをお話したいと思います。

そもそも、興動館科目創造センターという少し大仰な名前をつけていますが、興動館や興動館科目は「興動人」のために必要な「人間力」の諸要素・諸力を伸ばすことを目的として始めました。とどき誤解される方もいらっしゃるのですが、「興動人」は興動館教育プログラムだけで育てるのではないのです。お手元の本学のパンフレットを見ていただきますとお分かりいただけると思いますが、本学は実社会で力を発揮し、未来を切りひらき、物事をゼロから立ち上げる興動人を育成することをその人材育成目標にしております。そのために3つの教育プログラムを用意していますが、そのうち、「人間力開発プログラム」を担当するのが興動館教育プログラム

ムで、そのために用意された授業が興動館科目、そしてそれを運営するのが興動館科目創造センターです。

本学にも専門科目や共通科目（教養科目）があり、大学講義科目のラインナップはそろっているのですが、従来型の座学的な科目ではなく、「人間力」を育成する授業が必要ではないか、と。もちろん、従来の講義科目で「人間力」が育成できないわけではないのですが、「人間力」に重点を置いて伸ばすには、やはり新たな発想の科目がいるだろうということで、科目創造センターというものが出来、従来の大学教育における科目にとらわれない、新しい科目を作っていく、という取り組みになったわけです。ですから、興動館科目一覧をご覧くださいと、とても「ユニーク」な授業名が多いことにお気づきいただけるかと思いますが。たとえば、これもお手元の本学パンフレットをご覧くださいと、平成 21 年度興動館科目授業計画があり、上から、「元気力」「企画力」「行動力」「共生力」と4つのフィールドに分かれておりますけれども、このフィールドの中で、たとえば「元気力」の上から4つ目に「愛の講座」という授業科目名があります。「愛の講座」というのはいったいどんな科目なのか、大学の授業科目として成り立っているのか、と。科目のラインナップをご覧くださいと、大抵の場合、このあたりからご質問が出てきます。もちろん、この科目は文学や社会的なものをベースにしながらか授業を構成・展開しており、その他の興動館科目についても、担当教員の専門と絡めて授業を構成しております。ですから、もしも、これらを授業カリキュラムにおける専門科目や共通科目に位置づけて欲しいということであれば、きちんと位置づけられるような授業内容になっております。

平成21年度 興動館科目授業計画

フィールド	科目名	担当教員	単位数	履修可能
元気力	ゼロから立ち上げる	濱田 隆	2	全
	ゼロから立ち上げる	友松 隆	2	全
	ゼロから立ち上げる	山本 公幹・矢野 宗弘	2	全
	ゼロから立ち上げる	松本 洋一	2	全
	ゼロから立ち上げる	山本 公幹	2	全
	ゼロから立ち上げる	友松 隆	2	全
	ゼロから立ち上げる	友松 隆	2	全
	ゼロから立ち上げる	友松 隆	2	全
	ゼロから立ち上げる	友松 隆	2	全
	ゼロから立ち上げる	友松 隆	2	全
企画力	アイデアの力で社会で活躍する	村山 秀太郎	2	全
	アイデアの力で社会で活躍する	友松 隆	2	全
	アイデアの力で社会で活躍する	友松 隆	2	全
	アイデアの力で社会で活躍する	友松 隆	2	全
	アイデアの力で社会で活躍する	友松 隆	2	全
	アイデアの力で社会で活躍する	友松 隆	2	全
	アイデアの力で社会で活躍する	友松 隆	2	全
	アイデアの力で社会で活躍する	友松 隆	2	全
	アイデアの力で社会で活躍する	友松 隆	2	全
	アイデアの力で社会で活躍する	友松 隆	2	全
行動力	ビジネス・コミュニケーションゲーム	山本 公幹・矢野 宗弘・金澤 祐司	2	全
	ビジネス・コミュニケーションゲーム	友松 隆	2	全
	ビジネス・コミュニケーションゲーム	友松 隆	2	全
	ビジネス・コミュニケーションゲーム	友松 隆	2	全
	ビジネス・コミュニケーションゲーム	友松 隆	2	全
	ビジネス・コミュニケーションゲーム	友松 隆	2	全
	ビジネス・コミュニケーションゲーム	友松 隆	2	全
	ビジネス・コミュニケーションゲーム	友松 隆	2	全
	ビジネス・コミュニケーションゲーム	友松 隆	2	全
	ビジネス・コミュニケーションゲーム	友松 隆	2	全
共生力	愛の講座	山本 公幹・山本 秀太郎・三浦 祐司	2	全
	愛の講座	友松 隆	2	全
	愛の講座	友松 隆	2	全
	愛の講座	友松 隆	2	全
	愛の講座	友松 隆	2	全
	愛の講座	友松 隆	2	全
	愛の講座	友松 隆	2	全
	愛の講座	友松 隆	2	全
	愛の講座	友松 隆	2	全
	愛の講座	友松 隆	2	全

- 興動館科目 履修のポイント**
- 1 興動館科目の単位数を確保した場合は、自由選択科目の単位として計算されます。
 - 2 興動館科目の履修を希望する場合には、Webによる事前登録が必要です。指定された曜日・時間帯に登録を行った上で、履修してください。
 - 3 興動館科目の履修は、原則、興動館で実施します。本学キャンパスからスクリーンパスで5分、徒歩15分です。本学キャンパスからの移動経路なども考慮して、時間的余裕を確保してください。

興動館科目

4つの力を育てる科目群。



POINT

- 少人数 (原則として50名以内)
- フィールドワーク重視
- 双方向授業
- 発表重視
- 体や手を動かす

ただ、従来の授業カリキュラムにある授業との違いもあるわけですし、その一つは、「人間力」を育てるための授業として、興動館科目にはそれを貫く授業方法のルールがあるということです。これにつきましても、本学パンフレットをご覧くださいと、興動館科目のルールとして、次のようなものが挙げてあります。①少人数でやること。パンフレットにはマックス50名と書いていますが、ほとんどの科目は30名前後に抑えています。②それから、フィールドワークをすること。もちろん全ての科目でフィールドワークやっているわけではありませんが、フィールドワークを重視した授業展開を意識しよう、と。③それから、興動館科目の履修生をグループ化しながら、教員と学生のみならず、学生同士が双方向で授業を進めていくこと。その効用としては、ゼミの場合、4年生ゼミなら4年生、3年生ゼミなら3年生というように、多くの場合、同学年が纏まった形で授業メンバーが構成されていますけれども、この興動館科目は自由選択科目なので、1つの科目に1年生から4年生まで存在しており、その結果、教員以外に4年生や3年生が1年生や2年生の教え役になっていく。あるいは、逆に1年生でも、すぐれた知識や技術をもっている学生がいれば、授業の中で先輩を教えるというような、双方向な学生同士の教え合いが生まれていくわけです。教員も授業の中では、どちらかということコーディネーターというか、ファシリテーター的な役割をしているという、そういう部分が興動館科目の特徴となります。⑤それから、発表を重視すること。興動館科目では授業の展開の中でプレゼンテーションを繰り返してもらうことになっています。加えて、授業の成果を成果物として纏めてもらうことなど。以上、そういう授業方法についてのいくつかの「縛り」—という言葉も語弊がありますが—を興動館教育プログラムの中で、特に興動館科目については設けておきまして、その点に大きな特徴があるのではないかと、そう思っております。

ので、1つの科目に1年生から4年生まで存在しており、その結果、教員以外に4年生や3年生が1年生や2年生の教え役になっていく。あるいは、逆に1年生でも、すぐれた知識や技術をもっている学生がいれば、授業の中で先輩を教えるというような、双方向な学生同士の教え合いが生まれていくわけです。教員も授業の中では、どちらかということコーディネーターというか、ファシリテーター的な役割をしているという、そういう部分が興動館科目の特徴となります。⑤それから、発表を重視すること。興動館科目では授業の展開の中でプレゼンテーションを繰り返してもらうことになっています。加えて、授業の成果を成果物として纏めてもらうことなど。以上、そういう授業方法についてのいくつかの「縛り」—という言葉も語弊がありますが—を興動館教育プログラムの中で、特に興動館科目については設けておきまして、その点に大きな特徴があるのではないかと、そう思っております。

元気力フィールド

新しいことに
チャレンジするための
「可能性」を引き出す。

- 達成目標 ①失敗から元気に立ち上がるための意欲・気構を持つ。②自分の長所を発見し、自分の将来に展望を持つ。
- 授業方法 学生相互の発言を促し、それらを否定せず、意見の良さを認め論ずる。

元気力フィールドでは他者との関わりの中で自分の「長所」を発見することを目指します。また、大学で学ぶことの意味やどんな大学生活を送るべきなのか、さらに将来どんな職業につきたいのかなどを考えしていきます。そのため、授業では多くの人と対話し、自らを客観的に見つめる習慣をつけます。こうして現在の自分と未来の自分を結びつけて将来への道筋をイメージし、一歩ずつ前進する元気を養います。

企画力フィールド

「無」から「有」を
生み出す
創造力を磨く。

- 達成目標 ①無から有を生み出す創造力を持つ。②企画書に基づいて、その企画を相手に説得する力を持つ。
- 授業方法 テーマに沿って様々なアイデアを引き出し、1つの企画にまとめる。

大学生活の魅力のひとつは、企画から集まった多様な個性と出会い、交流できることです。そうしたさまざまな個性のつながりから生まれるエネルギー方向性を与え、新しい価値を創造するために必要となるのが「企画力」です。このフィールドでは実際に企画立案などに取り組み、問題を発見して深く掘り下げ、解決方法を導き出したり、仲間とともに問題を動かしていき力の習得を目指します。

行動力フィールド

失敗を恐れずに
挑戦する
実行力を培う。

- 達成目標 ①失敗を恐れず、粘り強く挑戦する力を持つ。②行動するための手順や方法を考え、実践する力を持つ。
- 授業方法 設定された課題・テーマに沿って問題を解決させる。

行動力フィールドのキーワードは「実践」です。例えば、まちづくりやボランティア活動、NPO・NGOの立ち上げなど、行動（実践）するための方法をまず学び、次に実際にやってみることで学んだ知識や技術をより強くなるものにします。そして小さな成功体験を積み重ねることで、失敗を恐れずにチャレンジする行動力を身につけていきます。学生が主体的に行動する中で、自分らしい生き方を発見することを目指します。

共生力フィールド

他者と協力して
目的を達成する力を
獲得する。

- 達成目標 ①他者を共感的に理解する力を持つ。②豊かな自己表現力を持つ。
- 授業方法 多様な価値観を持つ集団の力を使って課題を達成させるとともに、そのプロセスを学ぶ。

世代を超えて、また国境を超えて「協働」することが大切となるこれからの社会。そこでは新しい環境にあっても、人間関係を最初から築き上げ、他者と協力して物事を成し遂げることが求められます。このフィールドでは、「人間関係」を軸に、ディベートやボイラングージ、あるいは当学生との交流イベントなどさまざまな手法を取り入れた授業を行い、それぞれの学生が自分に最適な自己表現の方法や、人間関係づくりの手法を発見していくことを目指します。

そして、話が後先になりますが、興動館科目には、「人間力」の要素を4つに分けた「フィールド」というものが設けられています。そのフィールドとは、これもパンフレットに掲げておりますように、「元気力フィールド」「企画力フィールド」「行動力フィールド」「共生力フィールド」というものを設け、それぞれのフィールドごとに、達成目標を明示しています。達成目標は、現在では通常の各授業科目でもシラバスに書くのが当たり前になってきていますが、この「人間力」を獲得するためのフィールドという大きな枠—括り—ごとに、必要な達成すべき目標を掲げている点に特徴があります。

そして、フィールド全体の大きな達成目標を、そのフィールドに属する授業を担当する各先生方に、ご自分の授業に沿った形で落とし込んでいただくわけですね。そして、その達成目標に到達するための効果的な授業方法も明示してもらい、最終的には、元気を伸ばしていく、企画力を伸ばしていく、と。こういう風な約束ごとがあるわけで。「人間力」のどの要素に重点をおいて授業を展開するのか明らかにする、と。そこら辺にも興動館科目の特徴があらうかと思っております。現在のところ、本学には専任教員が百十数名ぐらいおりますけれども、だいたい30名近くはこの授業に参加をしてくれていますし、科目創造センターのセンター会議のメンバーをいれますと、もうちょっと関わる人数は膨らんでいきます。実は、科目に関わる教員を少しずつ増えていくことで、この興動館教育プログラムでやっている方法論のようなものを、専門科目や共通科目にも広げられるところは広げていこう、と。そういう風なことも意識しております。

ちょっと前置きが長くなったのですが、最後に「成果」に対する評価の問題を少し。「人間力」を伸ばすことを目標に掲げている限りは、その「人間力」が伸びたかどうかをはかる物差し・指標がいるわけです。もちろん、「人間力」は試験の点数で簡単に測定できるものではなく、授業の成果としてそれが伸ばしたかどうかをはかることは難しい、そう皆さまが実感されている通りだと思います。が、はかりづらいうからといって、試みないままで済ますわけにはいかないのだから何かの形で可視化をしよう、と。その可視化をする手段として、本学ではプログレスシートというものを導入しているわけです。このプログレスシートとは、「人間力」諸力の伸長度を学生に自己評価させるものです。実施は、授業が始まる前の事前評価、15回授業のちょうど中間点にあたる7回目か8回目辺りでの中間評価、そして、最終的に授業が終了したのちの事後評価、以上3回ほど評価させています。学生の自己評価ですから、客観性に疑問が残る所はあるわけですが、私たちの考え方としては、やはりこういうプログレスシートを使って、「人間力」「社会人基礎力」とは何かということを学生に意識させ、意識させた上で授業やプロジェクトに「参加」し、学んでもらうことに大きな意味があるだろう、そう考えております。

具体的には、本学の掲げる人間力の諸要素「元気力」「行動力」「企画力」「共生力」を、経済産業省の掲げておられる「社会人基礎力」の12の能力要素（主体性・働きかけ力・実行力・課題発見力・計画力・創造力・発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力）にブレイクダウンしながら、それぞれの要素がどれだけ伸びたかを学生自身に確認させております。ただ、たとえば「主体性」については「物事に進んで取り組む力」と定義していますが、学生にしてみれば何をどこまでできれば伸びたことになるのかがわかりにくいだろうし、「少し伸びた」とか「大いに伸びた」とかいう表現にするのも曖昧である、と。そこで、その確認のために、本学では、「社会人基礎力」の12の能力要素を「レベル0」～「レベル3」ではかる「人間力マップ」というものを用意しました。「人間力マップ」では、たとえば、「主体性」については、「レベルゼロ」なら「自分が生きることの意味や具体的な目標などあまり考えたことがない」、というようにその「指標」を具体的に示して学生に自分の力を評価させるわけです。そして、「他者の体験談や双方向の対話などを通じて自分が生きることの意味を考えるようになった」、あるいは「自分の長所を発見する、意識するようになった」という状況に移行していれば、レベル1に伸びただろう、と。こういう内容の「人間力マップ」を作って、学生の自己評価に具体性をもたせています。実際にこのプログレスシート導入した当初は、学生が「人間力マップ」を読んでもくれるか、それをもとに自己評価を書いてくれるか、ちょっと心配だったのですが、実は、やってみますと、学生はかなり真剣に書いてくれています。

まず、事前評価シートでは、氏名から始まって、この科目を受講した理由やこの科目を履修して社会人基礎力の

中でどんな力を伸ばしたいかというようなことを問うた上で、それぞれの12の要素について、現状では自分がどれくらいの力を持っているのか、そのレベルを自己評価させ、その自己評価に対する根拠も記載させます。さらに、目ざすべき最終目標レベルも明確にさせます。そして、中間自己評価シートでは、当初の自己評価レベルと比較させ、実際に授業を受けて、あるいはプロジェクトに参加して、どれくらい諸力が伸びたかについて記載させます。その中間時点で、諸力の伸びを自分が実感していれば、そのレベルがあがってくることになります。そして、すべての授業が終わったあとに、当初の自己評価レベルから始まって、当初の目標レベル、中間の自己評価レベル、終了時の自己評価レベルとその根拠などを記入させるわけです。それからもう一つ特徴的なところは、中間評価シート以降は、授業の担当教員が実際に授業を受けている学生の状況を見ながら、学生の実態に関する4段階の評価項目についてチェックを入れて、その評価に対するコメントを記載することになっています。これは、かなり重要なことだろうと思います。少人数授業でグループ・ワークをさせ、双方向授業を実践しているとは言いながら、どうしても履修する学生すべてに関して個別に対応し、それをきちんと評価する機会は、授業内ではなかなか難しい場合があるわけです。そこで、このプログレスシートのコメントの部分を利用して、授業時間外のところで学生と一緒に「振り返り」をする、という作業を行います。これは、科目担当教員には少し大変な作業ではありますが、コメントを中間と事後評価で履修学生全員分を記入してもらいます。それから、最終的には、授業が終了し、プログレスシートの記入が完了したのちに、「人間力」「社会人基礎力」の伸長度をレーダーチャートの形にしていき、学生に自己評価・教員コメントなどすべてをフィードバックしていくことにしています。私の個人的な感想になりますけれども、このプログレスシートを導入したことによって、それがなかった段階に比べて、学生自身が「人間力」「社会人基礎力」とその必要性を確実に意識するようになったのではないかと。そういう実感・手応えは多少なりともございます。時間がかかりおしておりますので、細かい話はまたシンポジウムのパネルディスカッションでお話をさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。